

舵輪

新トレーニース誕生

去る六月四日の総帆展帆をもつて、新たに一名の展帆ボランティアが誕生したので紹介します。

中島 妙子 さん（魚津市）

ボクがトレーニス通信

『あこがれ 一九九六航海型（小笠原航海）編』一九九六年八月二十八日、九月九日（一泊三日）No.9631

No.267 酒井 聰

十・反乱、トレーニースデイ 九月八日 天候 晴れ

ゲロリンピックが終わり、こんどはトレーニースが自主的に行動をきめるトレーニースデイです！これは、いままでクルーにこき使われていたお返しをする日（ウソ）。ってシナリオはなんでもいいわけで、やっぱりその予定に！まずは、首謀者を決める。ブレーンを集めて明日の決行の準備を夜中までやってました。反乱旗に衣装（笑）を作り、クルーを縛り上げる。ロープを束ねて、いよいよ明日は・・・

一夜明けて、なにごともないようにトレーニース全員が、いつもの日課に入りました。タンツに始まり、朝食、クルーミーティング（前日の反省と一日の予定の確認）、つづがなく終わろうとした時に暴動開始！まずは、トレーニース全員が蜂起！クルーを縛り上げ、船を支配し、以下を宣言！
トレーニースは、あこがれの理不尽なクルーの処遇に対しこれを排除し、船の自由を獲得した！
ついに、あこがれに自由が解放された！すぐに、フルセイル（帆をすべて張る）を始める。もちろん、安全を考慮し、人質のクルーの指示を仰ぎ、作業開始。
△安全第一自由に向かった！
さて、フルセイルになったところで、いったん緊張を解除して、各自自由に！（ちゃんとワッチ当番はいる）クルーに

恨みを晴らす？もの、マストに登り写真撮影、船の警笛を鳴らして、ビックリするもの（大きな音！）お昼は、デッキで日なたボツコしながら、お食事会！うん！あこがれならではのこと、まさにクルーズ！水平線を眺めながら、今までの苦しかったことや、辛かった日々を思い出して語り合う！実にロマンチック！航海で芽生えた恋は、まもなくについてしまう切なさ一層・・・
さて、シナリオに戻り、縛り上げていたクルーの一部逃げだし、事もあろうか、船の一部を爆破してしまい、船を退去せねば！退船部署スタート！例のボートを組み立て十名づつ船を下りて、あこがれを一周する。このときがあこがれの帆走をじっくりと見ることができ、唯一のチャンスです！トレーニースデイならではの事！あこがれの雄姿が太平洋を滑っている姿は、あなたそりや、素敵ですよ！（短い航海ではできない！）これぞ！帆船！感動ものですよ！
退船部署について補足。船舶ではその運行の安全性を高めることを目的に緊急避難訓練（操練）があります。たとえば、火災になったときの消火と退避や、浸水時の対処など。海中転落時の手順を以下に示します。

- 一．発見者はすぐに大声でクルーに知らせる。
- 二．海中転落者を見失わないように、マストに登り、指で方向を示す。
- 三．ライフブイなどの浮力をもつものを海に投げ込む。
- 四．船内への連絡は船内マイク放送にておく。
- 五．帆走時はただちにセイル・ステーションにつく。

つまり、見つけた人は大声で叫びながら、マスト（高所）にのぼり、転落者の方を指さすことと指差すことです。しかし、船は急ブレーキをかけて止まるって事はできない。船舶は、その重量と水との抵抗では、直ぐに停止できない。たとえ、スクリュウを逆に回しても大きな慣性でダメです。ましてや、帆船では風で進んでいるため、帆を畳むだけでも時間がかってしまいます。だから、帆船に乗っ

たら転落しないようにどこにでももたれかからない事！揺れた拍子にドボンとなります！（お、コワ！）
ところで、トレーニースの反乱は予定を早めて退船部署で鎮圧！あわれ、首謀者は船底に拘留されてしまいました！ちなみに、シナリオでは抵抗の後、命を落とし、海にレッコされるはずでした。
夕方に、初日と同じ、四国徳島の橋湾沖に投錨。少し長めの航海では最終日の前日は入港する近くで安着を祝う会（パーティー）をするのが習わしです？今夜は、ワッチごとにしものを決めて演芸会です！各ワッチごと、歌を歌ったり、寸劇を披露したり、ゲームをしたりして、最後の夜を名残惜しそつに過ごしました。

十一．さらば、雨の中の下船

ついに、航海も最後の日となりました。大阪南港に戻るコース、トレーニース全員であこがれのお掃除！各ボクから、食堂、シャワー室、トイレに廊下、階段そしてデッキを磨く！コースは関西国際空港の横を通り途中、連絡船が近くまでよってきたりしていました。また、このときトレーニース達はかなりナーバスになっていました。航海での思い出と、これからまた立ち向かう現実の日々を考えるもの、さまざまに、この航海で体験したことは、各自の生活のなかでは、小さな思い出かもしれないが、ズシツとした重しになるのでは！

船内での後片付けも終わり、メスルムに集合したところで、キャプテンより乗船記念の修了証の授与です。航海距離は152海里です。（内237海里を帆走しました）トレーニースたちは、お互いに住所をノートに書き込んだり写真を撮ったりして、これで本当に最後なんだねと確認してうつすらと涙を浮かべるものもいたような？雨の中、クルーは南港に接岸準備に追われていました。さて、ついに下船の時がやってきました。クルー達に見送られてトレーニース達はあこがれを後にゆつくりと下船です。
また、いつか乗船すると心に誓う者、すでに次の乗船の申込を済ました者、たぶんもう乗らないだろう者、また、乗船体験をこれからの人生に何らかの形で生

かす者、また集う者、笑う者、涙する者、それぞれのトレーニースの姿がありました。それまでは、とても体験できないと思っていたことや出会いにおおいに感激したことや思い出として大切にしたいこと、クルーの面々に感謝！
（おわり）

『想い出（船酔い）研究』 No.404 辻田 豊

地上の静止に慣れた身を、経験の無い揺れが常識の船上に移すとき。スムーズに適応を望むならどうするのがベストだろうか？中には何の抵抗もなく極自然にそれが可能な人もいる反面、やつとの克服で慣れの体感に到達する人もおります。早い遅いはあっても、対処の方式にきつと同じような共通段階のパターンがあるはずで、それをいち早く先取りすれば辛い思いも少なく楽になる。こんな理屈を並べて考えたのです。それは去る練習船海王丸の体験航海を控え、時化の荒れに弱いので大変気になるハードルでした。百戦錬磨の人でも他船に乗り換えるときと当座は揺れに酔いを感じると思います。それは、船の大小や船型の違いからくる固有の揺れモードと衝撃。しかし、その人たちは軽くこなし馴染んでいく。そこに確かにポイントがあるのです。取り敢えず仲間の研修生ベテラン組の航海中の変化を追うことにしました。まず出港時、お邪魔虫の研修生一同、ブリッジ屋上のコンパスブリッジデッキで見学。続く港湾、航路、外海に出ても珍しそうなサイドのハンドレールにつかまってそのまま周囲を眺めている。そんな人が多かったのですが、徐々に増すうねりに慣れた人たちは軽くつかまり、直立の身をユラリ、ユラリとリリースしている。一方、置物のように振られていた人は、早くも気分の悪さを訴え居室へ下りて、ビニール袋の中に服用の酔い止め薬とともに余韻のリズムで吐き戻している。その断続が治まった頃、改めて同剤の液体型を飲ませ、ほんのしばらくの安静で本人は行事の中に戻りましたが、薬効のタイムリミットを外したと、船体の動きに身を固

舵輪

した。外洋の荒天揺れで時化を体験。船内の歩行もままならぬ形。縦揺れのピッチングと横揺れのローリングを合成したリズムが襲ってくる。手始めは、地上と同じテンポのコンスタントな直進歩行を試みるがたちまち脚をすくわれ浮き足の小走り。次は脚がのめり込む急停止、よるめいて壁にぶち当たる。自然と半分踊る境地に身を柔らかく間合いを取ったフラフラ歩き。そして常に上半身の垂直保持を心掛ける。これは内蔵の急激な移動で発生する吐き気予防に役立つとともに、絶え間のない運動量の消費エネルギー、脚や膝の衝撃緩和と腰曲げを伴う相乗効果で不快から来る食欲不振も予想以下。不思議なくらいでした。当然、座位でも上半身はグラグラさせる自立の体勢。荒天中は長時間の背もたれ行為はしないこと。揺れに負け目を閉じたり物にすがるとは腹の圧迫や逆の酔い感の助長と誘発を招くので禁物でした。船の揺れにはリズムを予測した迎合マツチングの立ち上がる姿勢で動の中に静を捜す気持ち等々。その最

中に気づいたことは、動的人間への転換に足を鍛え、常日頃の船上体操での膝曲げ回し、腰回し、上半身の曲げ伸ばし等が基礎トレーニングであるのを知りました。持参している心強さが作用したのでしようか。とうとう、私自身は酔い止め薬を使用せずに終わりました。ところがなんと帰宅後、寝室の天井がユラリユラリと動いて見える。歩行中も眼球や体が動くのか景色も揺らぐ。すっかり憶した自律神経の平衡感覚が動のスタイルの海王丸モードではしばらくはこれへ動から静へ躰の切り換えスイッチングの遅い人こそ本当の意味の酔い酔い準備軍だったことを知ったわけです。私を含め、もし荒海の長時間をただ呆然と受け身で迎えていたら、すくみ始め嘔吐そして体力の減退、気持ちもパニック、そんな凶式でダウンしていたかも知れません。酔いの予防には早めの対向手段と揺れなどに負けないという心意気が第一と判ったのでした。

海王丸乗組員体験記

(終わり)

『最古の客船、新潟に現る!』

二等航海士 持田 高德



六月九日、新潟港へ世界最古の客船「ドロス号」を見学に行ってきました。あの映画で有名なタイタニック号の二年後に建造された、現在運航されている客船でもっとも古くギネスブックにも載っています。

データを紹介しますと、
船籍 マルタ共和国 ヴアレッタ

全長 130.35m

船幅 16.60m

総トン数 6,804t

航海速度 10.0 kts.

一九一四年米国で貨物船として建造され長い歴史の中で、メディナ号、ローマ号、フランカーC号、そしてドロス号と四回改名され、今日に至っています。その間、数回の大改造と二度のエンジン換装が施されています。

船内を見学しましたが、よく整備された船齢をあまり感じさせませんでした。現在の船名「ドロス」とはギリシャ語の召使い、仕える者という意味で、ドイツのキリスト教系、非営利慈善団体であるGBAがオーナーとなり、世界の国々に優れた書籍を手頃な値段で販売するとともに、援助、慈善活動などを行いな

から航海を続けています。驚いたことには、キャプテン以下三〇〇名の乗組員全員が全てボランティアであり、給料はもちろんのこと食費も個人で負担しているとのことでした。まさにキリスト教的なボランティアの精神なのでしょう。

三〇〇名の乗組員は、一歳から七五歳まで、船と言うよりは都市と言うほうが相応しく、それぞれ仕事を与えられ、学校、病院、理容院、郵便局etc.都市の機能で無いものはなく、全てがその専門家、資格保持者が当たっています。

話が長くなるのでこれくらいにします。詳しくは、インターネットホームページ <http://www.doulos-ships.de> をご覧下さい。

我が帆船海王丸も、富山を母港に、ボランティアの皆さんと、再びその優雅な姿を世界の海へ!と言うような日が来ることを夢見ながら新潟を後にしました。

(終わり)

アンケート調査結果について
来る七月二日、総帆展帆の反省会において、昨年度ボランティア各位を対象に実施した標記について、その結果を踏まえた次の提案を示す予定です。

船内案内・説明ボランティア(仮称)の研修開始
セイル体験ボランティア(仮称)の研修開始
その他

参加の対象となる者は、展帆ボランティアの中にあくまで希望者のみです。実現に向け、まずは勉強していただくこととなります。詳細は当日。

紺青賞表彰予定者

昨年の七月二日から今年の七月二日までの間に、総帆展帆に計五〇回の参加を迎えたボランティアを表彰する標記「紺青賞表彰」を、七月二〇日、海王丸フェスティバルの主たる行事として開催します。受賞予定者は次のとおりです。

中屋 明	一 外治
森下 和義	二 牧野 佳子
牧野 実	三 二上 勝
原井 節子	四 喜多 稔
武田 信幸	五 河原 秀夫
近藤 恵津子	六 釣 哲雄

(順不同、敬称略)

表彰後、展帆参加者全員で、公開一〇周年の記念写真を撮影します。

研修室使用に関するお願い
使用者は昼食や反省会の片付けをしつかりとお願いいたします。また、海洋講座講演中、受講目的以外の方には会場の使用を制限させていただきます。(講座は、主に第一研修室を使用する予定です。)

展帆等イベント

日時	名称	気象	参加人数	その他
6/4	総帆展帆	NW	3m/s	晴
八三名	スターボードタックルポイント			
トヤーズ	二九枚	海洋講座		

あさか

梅雨が明けると猛暑が待っているようです。皆さん、呉々もご自愛の程。

舵輪

空
ル
デ
ツ
キ
の
甲
羅
干
し

空
ル
デ
ツ
キ
の
甲
羅
干
し

SPICING THE MAIN BRACE

空
ル
デ
ツ
キ
の
甲
羅
干
し

SPICING THE MAIN BRACE

K A I W O M A R U